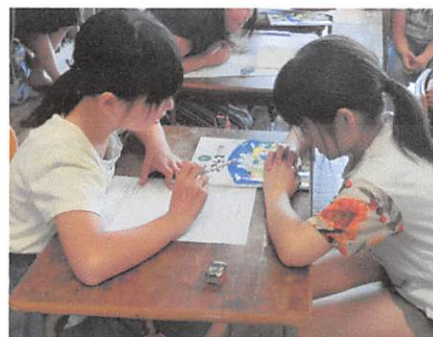


4年1組の授業「ひびの入った水そう」

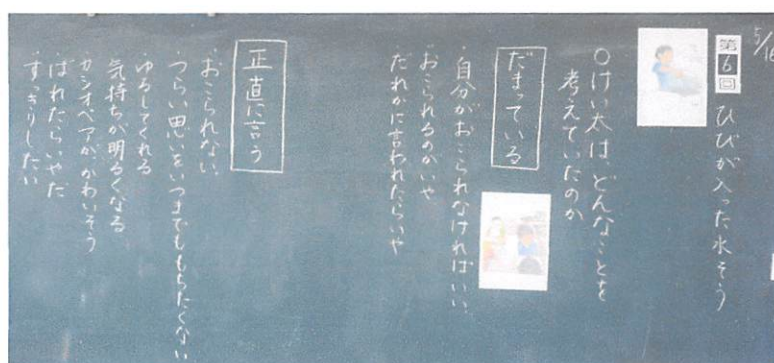
この頃の子どもは、周囲を意識して、過ちがあったとき、ごまかしてうそをついたり、素直に認めなかったりすることがある時期です。一度素直になれないと、ずっと自分を偽り続けなくてはいけなくなります。そうすると心が苦しく、毎日の生活が暗くなってしまいます。そんな生活をいやだと思えるのもこの時期です。

そこで、暗かった気持ちが明るくなったのはなぜかを考えさせることを通して、明るく正直でいることのよさを感じ取らせたいと考えました。



☆教材の内容について

生き物係のけい太は、クラスで飼っているカメの水槽を洗って、過ってひびを入れてしまいました。目立たないので、このままにしてしまおうという思いと、水がもれたらどうしようという思いで葛藤します。家に帰っても水そうのひびのことが気になり、暗い気持ちになります。しかし、次の日、正直に先生に話したことで明るい気持ちになることができたという内容です



「なぜ、けい太は正直に言おうと思ったのか。」を考えさせたところ、「ずっといやな気持ちのままはつらい。」「悩み続けたくない。」「言うとも明るい気持ちになる。」「気持ちがすっきりしないから」など、正直に話すことのよさに気づき、発表していました。

学習クラスの授業「いそいでいても」

☆教材の内容について

校庭であきらと遊んでいたたくやは、滑り台の下で鍵を拾いました。先生に届けようと、二人は職員室に向かいます。急いで戸を開けようとしたたくやは、あきらが注意しました。あきらの言葉で、たくやは、ロックをして、きちんとした言葉遣いで先生に鍵を渡すことができました。先生からほめられて、二人はにこにこしながら、またきちんとあいさつをして職員室を出るという内容です。



礼儀正しくすると、自分もまわり的人也、うれしい気持ちになることに気づき、発表しました。これからは、相手の目を見て、相手に聞こえる声であいさつしようという気持ちを持ちました。